

# 社会 基礎・基本を確実に身に付け、思考力、



## POINT | 知・技

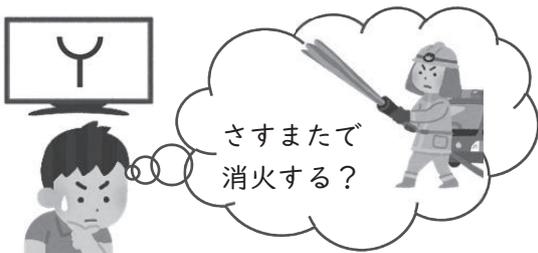
### 「地図記号や用語の理解」と「資料活用能力の育成」のための工夫

3学年で初めて学習する社会科の学びが、その後の子どもたちの社会科への印象を決めてしまうと思われる。苦手意識のある子どもたちからは、社会科は「暗記することが多くて嫌だ」「教科書等の資料の言葉が難しい」「地図の読み取り方がよく分からない」といった声をよく聞くのではないだろうか。しかしながら、これらは算数科の乗法九九などと同様、社会科の学習の基礎・基本であると考ええる。

そこで、知識及び技能に関わって、「地図記号や用語の理解」と「資料活用能力」を身に付けるための実践例を紹介する。

#### 1 地図記号や用語の理解

##### (1) 授業の導入での復習 + $\alpha$



単に地図記号の復習にとどまらず、由来やいわれを紹介することも、興味・関心を高める上で重要であると思われる。

##### (2) 覚え方のアイデアを紹介

地図上の東西の判別は「北の右側は『ヒ』だから、東!」といった、印象に残る覚え方の紹介も効果的だろう。



##### (3) 地域学習の学びを資質・能力の育成に

私たちの町の商店街は、大きな道路の近くに集まっているね。



ほかの町も同じかな。教科書に載っている市や町も見てみよう。

3・4学年の社会科の学習は、自分たちの住んでいる地域を学ぶことがゴールではなく、その学びで得た知識を一般化して、最終的に資質・能力として身に付けることができるようにすべきであると考ええる。

#### 2 資料活用能力の育成

##### (1) 地図活用の仕方の指導

① 「地名検索は索引から」の習慣付け  
地図帳の使用が始まる3学年から「1分間地名探し」などで、索引を使い素早く検索できるように指導していきたい。

##### ② 地図の凡例を読む

地図の端にある凡例には、その地図の色や線などが何を表すのかの説明が示されている。忘れずに指導していきたい。

##### (2) グラフの読み取り方の指導

- ① 表題を見て何のグラフか捉える。
- ② 出典とその年度を見る。
- ③ 縦軸・横軸はそれぞれ何かを見る。
- ④ グラフ中の変化や差を見る。
- ⑤ 変化の大きい部分の理由を考える。

【グラフを読み取る5つのポイント】

# 判断力、表現力等を育てる工夫

音更町立下音更小学校 教諭 松村 理史



## POINT 2 思・判・表

### 見学や観察等の具体的な体験を伴う学習後の表現活動や言語活動の充実

小学校3・4学年の社会科は、身近な地域や施設等が学習対象であるため、見学や観察等の具体的な体験を伴う学習をすることで社会的現象の実感を伴った理解が促されるだろう。また、このような学習を好み、意欲的に取り組む子どもたちも多いと思われる。しかしながら、その体験を「楽しかった」などの感想や、「〇〇があった」といった事実の列挙にとどまってしまう、その後の学習を思ったほど深められなかったことはないだろうか。

そこで、思考力、判断力、表現力等を育てていくために、具体的な体験を伴う学習後の表現活動や言語活動の充実について、「町探検」「お店の見学」の実践例を紹介したい。

#### 1 町探検後の表現活動の工夫

学校の周りには、いろいろな建物があって楽しかったな。

では、探検で学んだことを生かして、学校から郵便局までの道のりを白地図に描いてみよう。

最初は…東にある校門を左に曲がったけれど、白地図で表すと、どの方角なのかな？

確か…校門を左に曲がったら、中学校が見えたよね。中学校は学校から見ると北の方角だよ。

そうか！大きな目印になる建物がどの方角にあるかを考えていけば、描けそうだね！

町探検では、建物・施設や土地利用の様子、交通に関わるものの有無だけではなく、それらが学校の周りのどの方位にあるのか又は広がっているのかといった調べたことを思考、判断し、表現できるようにすることが大切だと考える。

さらに、このような表現活動の充実のためには、前述した地図記号や方位の知識が定着できていることが必要不可欠であるだろう。

#### 2 お店の見学後の言語活動の工夫

見学をしてみて、なぜだろうと思ったことはありませんか。

入口の近くに、食品トレイの回収ボックスがありました。

トレイはお客さんがごみとして出せばいいはずだね。

お店が回収した方がいい理由が何かあるのかな。

もしかしたら、環境のことと関係があるのかもしれないね。

お店の見学では、子どもたちはどうしても「商品」に目が行きがちであると思われる。そこで、見学後には「働く人」や「施設・設備」にも目を向けることができるようにしたい。多様な消費者のニーズに応えたり、SDGsなどに関わる環境への取組も行ったりしていることなど、複数の立場から多角的に考えられるようにすることが大切だと思われる。